

1

河川名

ひいがわ

樋井川水系

樋井川

特徴・アピールポイントなど

市民会議を開き、市民の意見を取り入れながら復旧しました。
九州大学で模型を使いながら自然環境に配慮しました。



平成21年7月24日、中国・九州北部豪雨によって浸水面積28.5ha、床上浸水172戸、床下浸水238戸の浸水被害が発生しました。



洪水痕跡 h=45cm

長尾橋付近

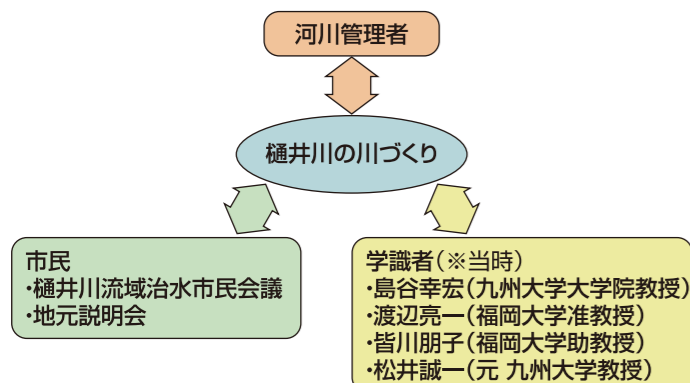


堤防溢水 h=10cm

田島橋付近

樋井川流域治水市民会議

平成21年7月の豪雨をきっかけに発足した会議で、河川改修などのハード対策のほか、流域に係わる全ての人々が協力し、貯水、遊水、浸透など流域全体の治水機能の向上を行おうという新しい試みを行っている会議です。



主な参加者
九州大学、福岡大学、九州産業大学、福岡工業大学、NPO法人南畑ダム貯水する会、地域住民、福岡市、福岡県

多自然川づくり

基本方針として、多自然川づくりの考え方により、①上下流間の生物移動の連続性、②景観、③整備後の河床変動の抑制を原則としました。九州大学、(独)土木研究所 自然共生研究センターの学識者の方から意見を聴取し、工法を検討しました。

<制約条件>

市街地を流下する河川(河道拡幅が合理的ではない)
↓
河床掘削により流下能力向上

<現況河川特性>

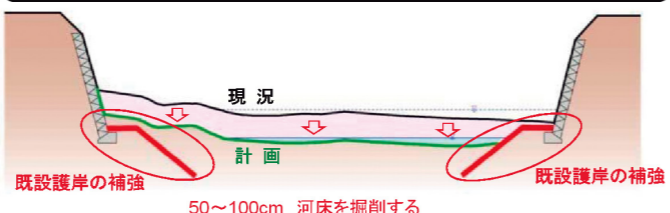
- ・植生、様々な魚介類・鳥類が生息…川の特長
- ・沿川の憩いの場、シジミの放流など河川利用が活発…利用形態の特長

<川づくりの方針>

- ・現状(工事前)の河川環境を尊重

<川づくりの内容>

・河床掘削は、現況の河床形状をスライドダウンする。



50~100cm 河床を掘削する

災害からの復旧で環境に配慮した事例

平成21年7月の中国・九州北部豪雨により、流域でこれまでにない浸水被害が発生した樋井川は、床上浸水対策特別緊急事業によって整備されました。

樋井川は、福岡市の中心部を流れる都市河川でありながら、水質がよくアユやシロウオなどが生息する自然豊かな川で、地域に親しまれていました。そのため、整備にあたっては、地域の方や学識者などにより発足された、樋井川流域治水市民会議と連携し、自然環境や河川利用などに配慮しながら整備を行いました。

河床安定工法(早瀬工)(長尾新橋下流)



湾曲部下流に設置し、河床の安定を図るとともに、瀬淵構造の保全をする工法で、平成25年度に1基、平成26年度に4基施工しました。

大型ブロックの選定



大型張りブロック

設置イメージ

砂河川なので河床の変化に対応できる追従性の高いもので、かつ、自然環境、景観に配慮したものを選びました。

改修(スライドダウン)前後(田島橋下流)



覆土の効果



施工直後 2014.06.02

施工1ヶ月後 2014.06.24

河川愛護活動

河川愛護団体「樋井川を楽しむ会」のメンバーや一般参加の親子連れなどが参加し、月定例で清掃活動が行われています。



水辺の利用状況や生き物

